

## 実施の概要

### 「図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての調査」の目的

本調査は、日本美術教育学会研究部が鑑賞領域の学習指導の実態と望ましい在り方を探るために、平成15年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）の助成を受けた研究課題「美術教育における『鑑賞』学習のカリキュラム開発に関する研究」の一環として、全国の小学校及び中学校美術科の教員を対象とし、質問紙法によってアンケートを行ったものです。

美術教育研究では、表現領域の学習指導を中心に「新しい学力観」に基づく「生きる力」の育成を実現しうる新しい教材内容や学習指導の在り方も含め、そのカリキュラム開発が積極的に行われています。

その一方で、鑑賞領域の学習指導については、その内容が主知的であり、指導にも美術理論・美術史、美学、芸術学の専門知識を必要とするなどの印象が強く、創造的活動を重視してきた我が国の美術教育の傾向から非創造的な学習で内容が難しいと忌避される傾向にあります。このような状況下で鑑賞領域は、表現領域に比較して従属的な扱いに終始されることになり、その指導方法やカリキュラム開発が十分になされてこなかったという反省があります。

本研究では、このような現状をふまえ、鑑賞の学習指導の実態調査を全国規模で行うとともに、そのカリキュラムモデルを開発することを通して、今後の美術教育における鑑賞領域研究の基盤を確立することを目的としています。

今回の調査は、調査対象総数5,000件とし、その内訳として小学校3,000件、中学校2,000件としました。全国都道府県ごとの教員比率から調査対象者数を算定し、不作為に抽出した学校の図画工作科、美術科を担当する教員にアンケート用紙を直接送付して返信していただく郵送方法を中心に行いました。さらに一部ですが日本美術教育学会研究大会などで参加者に配布し、郵送によって得られた回答も含まれています。

有効回収数は、小学校714件、中学校447件、計1,161件となり約23%の回収率となりました。

本調査結果は、多忙にもかかわらずアンケート調査の回答に協力頂いた全国の小学校・中学校の教員の方々の賜でもあり、この場を借りて篤くお礼申し上げます。

1. 調査の内容：巻末「資料」（95～104頁）として添付されている調査用紙を参照下さい
2. 調査の方法：郵送によるアンケート調査（一部直接配布・郵送回答）
3. 調査の対象：

	小学校	中学校	計
送付件数	3,000	2,000	5,000
有効回答件数	714	447	1,161

4. 調査年月日：2003年7月1日～9月30日
5. 特色：今回の調査の特色は、全国の小学校および中学校の教員を対象に同時にアンケート調査を行った点にある。そのため、調査結果の考察において小・中学校の比較ができる他に全都道府県を網羅した調査ということで日本の美術教育の現状を示すデータとなっている。

## 調査結果の概要

「図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての調査—2003年度全国調査—」の結果を「報告書」にまとめることができました。本調査はその題名が示すとおり小学校「図画工作科」、中学校「美術科」の教科内容の一領域である「鑑賞」の学習指導についての調査ですが、美術教育の学習指導の一般的な実態を広く知る手がかりになる設題も含まれています。

また、全国の都道府県をバランス良く網羅した調査であることなどから、現時点における日本の美術教育の実態を示していると言っても過言ではありません。したがって、本調査は2003年度時点における我が国の小学校、中学校の図画工作科・美術科教育の実態を示す資料であると考えられます。今後このデータに基づく多様な視点からの考察や研究が期待されます。

### 1. 調査対象者（回答者）

#### (1) 回答者の分布

都道府県教員数の比率に対応した回答数がほぼ得られた結果になっており、全国をバランス良く網羅した形になっている。また、小・中学校ともに各学年の配分もほぼ均等になっている。回答者の勤務年数からは、小学校で20年以上30年未満が過半数を占め、30年以上を含めると全体の約68%が20年以上の勤務経験を有するベテランであることがわかる。中学校では48%が20年以上のベテランが占めており、教育現場における教員の高年齢化が反映されている。

#### (2) 勤務形態

小学校では全科を担当する教員が約8割の83.5%を占めており、中学校では美術科の専任は約6割の59%（3%の免許外含む）で意外に少ないことがわかる。また、免許外で美術科を担当する教員が、専任（3%）兼任で（26.6%）と約3割の教員が美術の免許を持たずに美術科の授業を受け持っている。これらについては、さらに都道府県別にデータを精査してみる必要がある。

#### (3) 美術への関わり方

小・中学校教員とも「美術館や美術展などの鑑賞」（小：68.5%、中：74.9%）がトップで鑑賞への関わりが多く、「美術について学んだことがある」「身近なものの色や形にこだわる」「美術及び美術教育研究」などを上回っている。制作活動については「趣味的作品制作」（小：41.1%、中：51.2%）「専門的作品制作」（小：13.6%、中：44.9%）と鑑賞活動の約7割には及ばず、制作よりも美術館や美術展で鑑賞を楽しんでいる教員が多いことがわかる。

### 2. 図画工作科・美術科の学習指導全般

#### (1) 授業時数

教育改革、教育課程の改訂などのたびに授業時間数が削減された中学校美術科に加え、現行の「学習指導要領」では小学校高学年での授業時数が削減された。小学校「図画工作科」中学校必修「美術」の授業時数は大半が「学習指導要領」に示された通りであるが、中学校で各学年とも13～4%の割で2.1時間を超えて授業時数を確保している。さらに、中学校選択「美術」で、3学年において2時間以上確保しているとの回答が45%もある。他教科の教員や学校全体の理解を得なければ授業時数の確保は難しいだけに、大きな努力がなされていることがわかる。

#### (2) 教科書

中学校で「ほとんど使用していない」を含めて約25%の教員が教科書を使用していない。一方、小学校では約14%で使用せず、「ときどき使用している」が50%に迫る点で、やはり教科書が十分に使われ

ていない実態が示されている。

使いやすいかどうかの質問では中学校では、「使いにくい」と「ふつう（特に問題はない）」とに評価が二分され、小学校では「ふつう（特に問題はない）」が66.5%、「使いにくい」が約3割の27.2%となっている。

「使いにくい」と回答された理由には、「実際に取り組める適切な教材が少ない」（小：61.9%、中：57.6%）「児童が参考にできる作品が少ない」（小：45%、中：48.1%）「道具の使用法や技法についての説明が不足している」（小：31.7%、中：72.4%）が上位に挙げられている。とりわけ中学校教科書に「道具の使用法や技法」についての説明を要求している教員が7割以上に達していることが特徴的である。

### (3) 学習指導への取り組み姿勢・態度

「図画工作科の学習指導への取り組み」（小学校）において「積極的である」（42.5%）「やや積極的である」（50.1%）と9割以上の教員が授業に前向きに取り組んでおり、評価に値する。ただ消極的な理由として「他教科の指導で手一杯」（54.9%）「指導や評価の仕方がよくわからないため」（37.3%）「自分に苦手意識があるため」（36.3%）といずれも、図工・美術教育へ対しての理解不足や苦手意識が原因となっていることがわかる。特に「他教科の指導で手一杯」が過半数に達しており、図画工作科以外の教科に多くの時間を割いていることが予想される。

中学校では「あなたは美術の学習指導は十分にできていますか」に対して「不十分だ」（63.1%）が「できている」（30.8%）を大きく上回っている。その理由は、「授業時数が足りない」が8割以上（83%）と圧倒的であり、続いて「教材研究のための時間が十分にとれない」（59.2%）、「設備・備品が不十分」（40.1%）などがそれぞれ「自分の努力不足」（36.8%）を上回っている。理由として、授業時間数や研究時間の不足や設備・備品などの環境をあげている点は、中学校における「美術」の現況からある程度理解できるが、これらを理由に6割に上る教員が不十分な授業しかできていないとするならやはり大きな問題であろう。

### (4) 図画工作や美術の学習の意義

「ものをつくりだす喜び」（小：71.4%、中：59%）がトップで、「美しいものを美しいと感じる心」「個性の発揮・自己表現」「豊かな情操」「自他の個性を認め尊重する態度」など情意領域の項目が上位を独占している。一方、「創造的な技能」（小：17.4%、中：12.7%）は低迷し、「態度形成>能力形成」の意識実態が如実に示されている。また、「鑑賞の能力」（小：2.4%、中：3.9%）に至っては、小・中ともに最下位となっており、美術教育全体の中での「鑑賞」軽視の傾向が顕著に示されている。

「美術についての関わり方」での結果（教員の多くが制作よりも鑑賞活動を楽しんでいる）と対照的であり、一般的な美術を愛好する在り方が鑑賞活動中心であるのに対し、学校における図工・美術教育では圧倒的に制作活動が中心になっていることがわかる。

## 3. 鑑賞の学習指導

### (1) 鑑賞学習の目的・意義

14項目のいずれにも重要性を認める回答が多く見られるが、小・中教員ともに、表現への関心の喚起や造形能力、表現的態度の形成など「表現」領域に関わる目的・意義について重要であるとの回答が多く、美術文化や歴史への興味感心の喚起・理解、美術文化を愛好する心情の育成など「鑑賞」に関わる目的・意義については、前者よりは低く、鑑賞学習が表現（制作）の能力形成のための手段ととらえられる傾向が見られる。また、批判的・分析的思考力や洞察力の育成、生きる意味や生き方を考え問直す姿勢の育成については、重要と考える回答は小・中ともに比較的少ない。全体的に表現（制作）重視の傾向が見られるが、いずれも小学校でその傾向が顕著である。

## (2) 鑑賞学習の活動

鑑賞の学習活動としては、まず作品を見る活動が重視されている。特に「実物作品を見る」ことや「制作した作品を見せ合う」ことはいずれも90%を超えている。それに対して、「文を読む」、「資料を集める」、「調べる」、また「記録する」、「推理や仮定をする」という調査、記録、推論などの活動は低い。これらの傾向は特に小学校で顕著である。また、新しい学習活動として近年注目される鑑賞に関する「ゲーム活動」や「プレゼンテーション」などは、認知度が低いようである。特に、鑑賞のゲーム活動は中学校での認知はきわめて低い。一方、「制作をする」、「作家や職人の制作活動の過程を見る」が小・中ともに比較的重視されている。

## (3) 鑑賞学習の対象（内容）

鑑賞学習の対象（内容）では、圧倒的に「歴史的な名作や作家の作品」「児童生徒の作品」が重視されており、小学校では若干ではあるが「児童生徒の作品」が「歴史的な名作や作家の作品」を上回る。「マンガやイラストなど身近なアート」「写真や映像」など、サブカルチャー的な作品や映像メディア表現などは未だに重要視されていない。デザインや工芸なども純粋美術や児童生徒作品に比べるとやはり低い。「個性的表現の工夫」「多様な表現技術や技法」のような表現（制作）に役立つ内容が小中ともに重視されるのに対し、美術やその表現を理解する上で必要な「作家の背景や人生観」「美術の歴史や社会的背景」「気候風土と美術文化」などは、特に小学校において重視されていない。これは、「目的・意義」で示された傾向と整合している。「手書きの文字や書」と「コンピュータグラフィックスやWEBデザイン」は、50%前後の教員にある程度重視されている。ここでは、美術教育全体がカバーすべき領域・分野が広がる一方で、鑑賞学習では相変わらず純粋美術重視の傾向が強いことが示されている。

## (4) 鑑賞学習の場

学習の場としては制作を伴わない場合、多様な環境や場が考えられる。しかし、調査によると小学校では普通教室（43.5%）、図工室（26%）が「たいへんよく使う」と回答している。また、中学校では美術室（76%）が「たいへんよく使う」と回答、「どちらかというを使う」（20.6%）を加えればほとんどの授業が美術室で行われていることがわかる。また「図書室・パソコン教室・視聴覚室など」も小学校で38%、中学校では51.3%で使われており、学習内容によってはよく使われるようである。「美術館・博物館」については、小学校で28.2%、中学校で31.3%と約3割が「まったく使わない」と回答しており、予想以上に使われる機会が少ない。

## (5) 鑑賞学習の教材教具

教材教具では、教科書が小学校で74.5%、中学校で69.1%が使うと回答している。これは図画工作・美術全体に比べてきわめて高い数値であり、鑑賞学習では教科書がよく使われることがわかる。しかし、全体としてあまり使用されていない傾向にあるのは、全体に対する鑑賞の学習の割合が低いからであろう。作品を見せるためのメディアとしては、小・中の差はあるが、「美術全集などの図版」（小：64.2%、中：70.2%）、「市販される印刷教材・資料集」（小：54.8%、中：83.3%）が多く使われており、鑑賞が印刷メディアを中心として行われている。また「教師が作成する自作印刷教材・資料など」（小：51.5%、中：83%）もよく使われている。一方、市販の視聴覚教材は、特に小学校ではあまり使われていないことがわかる。

また、パソコンソフト（小：17.7%、中：18.7%）やプロジェクター（小：29.7%、中：43.8%）、インターネット（小：25.7%、中：26.4%）などは意外に使われていない。「絵はがきなどのカード類」（小：43.3%、中：25.3%）「カメラ・デジタルカメラやビデオカメラなど」（小：47.8%、中：42.7%）と新しい映像メディア教具を積極的に取り入れる姿勢も見られる。小学校では、絵はがきなどのカードによるゲーム（アートゲーム）を取り入れている傾向が見られる。

## (6) 鑑賞学習の結果、成果、評価資料

小中学校とも「ワークシートや鑑賞カードなど、児童生徒が自ら記入した学習過程の資料」(小：83.4%、中：84.2%) がもっともよく使われており、中学校では「レポートや感想文」(小：61.9%、中：84%)、小学校では「相互評価」(小：76.6%、中：54.9%) が評価資料としてよく使われていることがわかる。

一方個人、グループとも「発表・プレゼンテーション」は意外に少ない。「デジタルポートフォリオ」は小・中ともにまだ少なく、「ペーパーテスト」は中学校では過半数で使われており、小学校ではほとんど使われていない。以上から、授業の後に評価資料を収集して行う中学校の評価に対し、小学校では、児童の活動の中に評価を盛り込む傾向がみられる。

## (7) 鑑賞学習指導の取り組み

小・中とも、「積極的である」、「消極的である」はきわめて少なく、「やや積極的である」(小：41.9%、中：38.8%)、「やや消極的である」(小：44.8%、中：45%) に二分されている。ある意味、何を持って積極的、消極的と判断するのかという明確な基準がわからないとも受け止められる。ただ、「消極的と回答した場合の理由」を見てみると、小学校、中学校ともにその回答の傾向は類似している。また、「積極的に進めていくために必要な改善点」もやはり類似している。これらから見て、小学校・中学校ともに、鑑賞の学習指導に関する問題意識が共通していることがわかる。

「消極的な理由」では、「授業時数が少なくて鑑賞に充てる時間がとれない」(小：78%、中：88.2%) が8割前後と群を抜いており、「近隣に美術館などの施設や会場がない」(小：49%、中：45.7%) 「提示する資料が乏しい」(小：45.4%、中：44.8%) 「鑑賞の教材研究をする時間がとれない」(小：35%、中：38.9%) と続く。また、「鑑賞に関する知識が乏しい」と回答した教師が小学校で37.7%と比較的多く見られるが、専門の美術科学習を担当する中学校教員のなかに24.9%も存在する。実に4人に1人の中学校美術教師が「知識に乏しい」と回答しており、専科教員の資質という点で問題点を抱えていると言わざるを得ない。

「改善点」では、中学校では「十分な授業時間の確保」が88.2%の9割と群を抜いており、小学校では「鑑賞の学習指導に関する現職教師の研究・研修」が47.8%で「十分な授業時間の確保」(42.5%) を上回り二分する。「現職教員の研究・研修」は中学校では2位で43.3%に達している。次いで「鑑賞の学習指導に利用できる資料の充実」(小：39.3%、中：31%) 「実践方法の開発と啓蒙」(小：30.3%、中：21.5%) 「教材研究をする時間的余裕の確保」(小：24%、中：27.3%) などが続く。

授業時数の確保は特に中学校では切実であるが、現行制度の壁は厚い。こうした制度的な軋轢やいらだちの中で、「表現(制作)活動も十分に出来ないのに、鑑賞学習まで時間がまわせない」という教師たちの思いは、裏返せばそれだけ表現重視、鑑賞軽視という図式を浮上させる。一方で、「もっと美術のことをしっかり勉強したい」「鑑賞学習指導について適切なアドバイスやヒントがほしい」と思っている教師も少なくなく、そのための「実践方法の開発と啓蒙」「研究・研修の機会」を充実させていく必要性が教員の中から求められていることがわかる。

## (8) 出身大学における鑑賞学習指導関連の授業

今回の調査対象者が出身大学において「鑑賞の学習指導に関する授業が設定されていたか」どうかの質問には、小学校では51%で「特に設定されていなかった」と「必修科目として設定されていた」(19.3%) をはるかに上回っている。それに対して中学校では、「必修科目として設定されていた」は48%あり、「特に設定されていなかった」は29.3%であった。小学校では、おそらく専門科目として中学校の「美術」の免許を持つ者以外は、ほとんど学ぶことのない科目であったに相違ない。しかし、中学校では専門科目として美術理論・美術史などは必修科目であるはずだが、約3割で特に設定されていなかったとの回答は、免許外の教員回答の可能性がある。

設定科目については、小中ともに、西洋美術史（小：76.1%、中：87.8%）日本美術史（小：59%、中：63.4%）の順で、美学（小：30.9%、中：37.4%）、芸術学（小：19.7%、中：24.4%）と続く。この点については、調査時点での回答者の記憶に基づくもので、正確な実態を反映しているとは言えないが、鑑賞学習への知識不足や理解の不十分さの原因の一つと考えられる。教員養成系の大学、学部学科などのカリキュラムを調査して正確なデータを得る必要があるだろう。さらに、教育職員免許法施行規則に基づく大学の図画工作や美術科に関連する科目が、学校現場の図画工作や美術の実践とどうリンクすべきかなど教員養成の立場から調査研究も必要となってくるであろう。

#### 4. 総括

今回の報告書は、義務教育レベルの美術教育（鑑賞学習）に関する諸般の実態を明らかにするだけでなく、課題や問題提起を含むデータとして多くの教員や研究者に有益な資料であると自負するものである。大規模な全国調査としては初めての試みで、その調査の方法や対象者の抽出方法などについて回答者から若干指摘された点もある。本調査の意義や目指すところが十分に理解されなかった点について反省するとともに、今後の課題としたい。今後これらのデータをさらに精査、分析、検討を加えながら、鑑賞学習指導の在り方を理念と実践の両面から追求し、カリキュラムモデルの開発に努める所在である。

（文責：新関伸也・大橋 功）

# 調 査 報 告

## I 調査対象者

### 1 調査対象者（回答者）全国比率

小学校教員 (%)

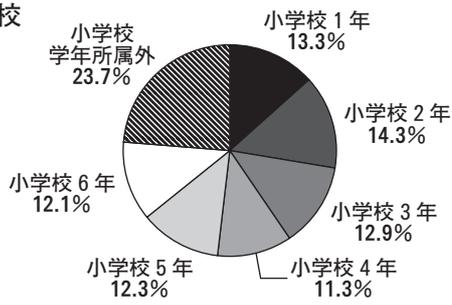
北海道	3.1
青森	1.3
秋田	0.6
岩手	1.1
山形	1
宮城	2.4
福島	1.3
茨城	3.1
栃木	2.4
埼玉	1.7
千葉	2.4
東京	9.5
群馬	1
山梨	0.8
神奈川県	1.5
長野	2.7
新潟	2.5
静岡	4.3
愛知	4.8
岐阜	1.8
福井	1.3
富山	1.3
石川	1.3
三重	2
滋賀	2.8
京都	1.4
大阪	5.7
奈良	1.5
和歌山	0.8
兵庫	4.6
岡山	4.2
広島	2.1
鳥取	0.8
島根	4.3
山口	1.1
徳島	1.5
香川	1.3
愛媛	2.1
高知	0.8
福岡	2.9
佐賀	1.4
長崎	1
宮崎	1
熊本	1.4
大分	0.3
鹿児島	1.4
沖縄	0.4
合計	100

中学校教員 (%)

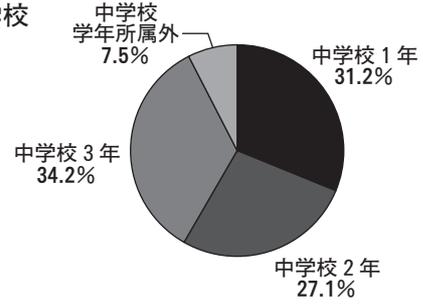
北海道	4.3
青森	1.6
秋田	1.8
岩手	0.2
山形	2
宮城	1.8
福島	1.6
茨城	3.4
栃木	1.3
埼玉	2.7
千葉	3.8
東京	8.1
群馬	1.6
山梨	0.4
神奈川県	4
長野	2.5
新潟	2.5
静岡	3.4
愛知	6.3
岐阜	2.5
福井	1.8
富山	1.6
石川	1.1
三重	0.9
滋賀	2
京都	1.3
大阪	4.7
奈良	0.9
和歌山	0.9
兵庫	3.8
岡山	2.7
広島	1.8
鳥取	0.9
島根	2.5
山口	2.7
徳島	0.9
香川	0.9
愛媛	2
高知	0.4
福岡	3.1
佐賀	0.7
長崎	2
宮崎	0.2
熊本	0.9
大分	0.7
鹿児島	1.8
沖縄	1.3
合計	100

2 所属校種と学年

小学校

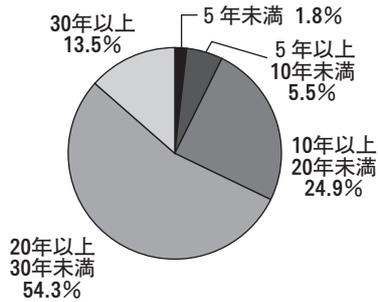


中学校

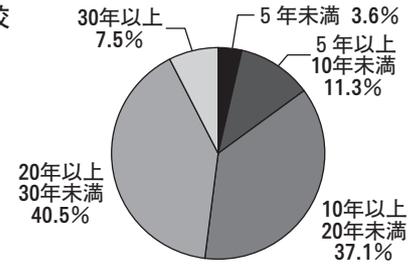


3 勤務年数

小学校

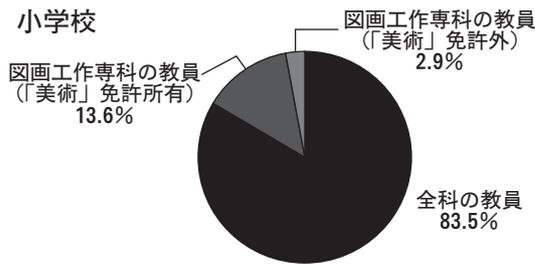


中学校

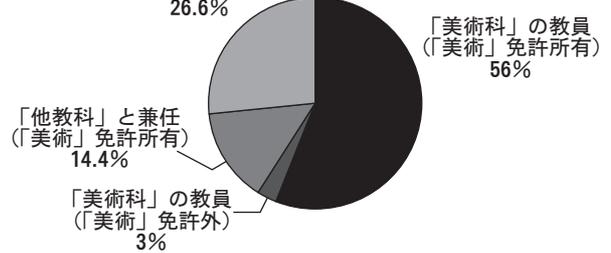


4 勤務の形態

小学校

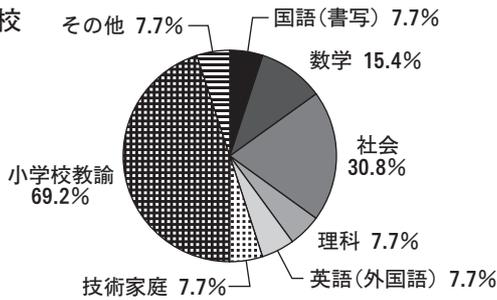


中学校 「他教科」と兼任 (「美術」免許外)

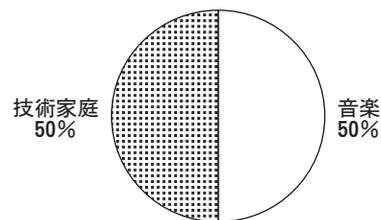


5 「美術」免許外で所有する教科の免許

小学校

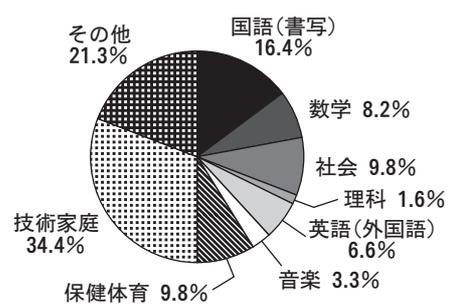


中学校

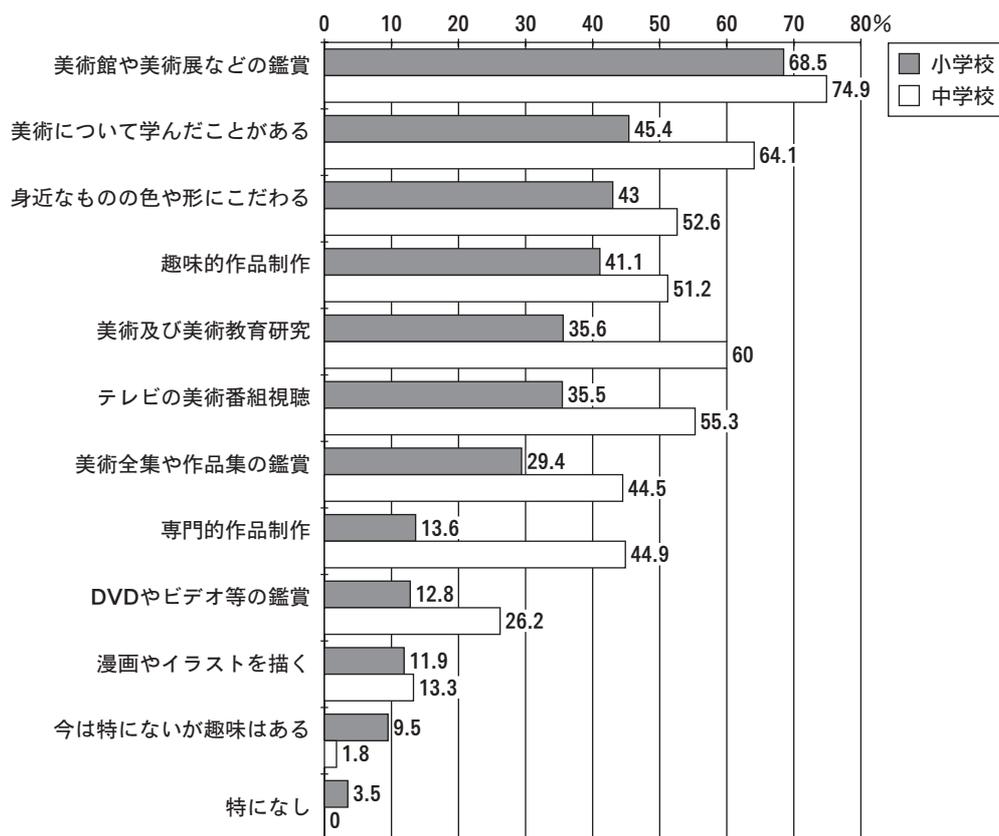


6 中学校美術科以外で兼任している教科

中学校



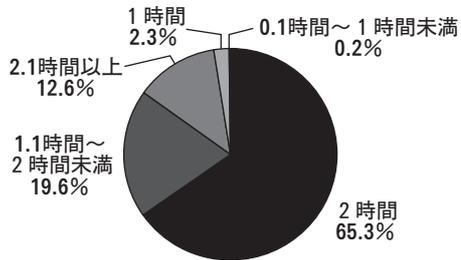
## 7 美術についての関わり方



## II 図画工作科・美術科の学習指導

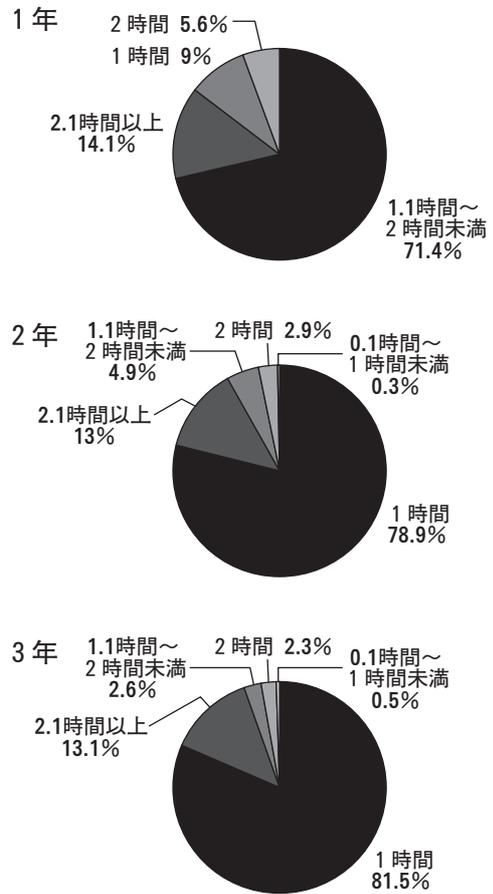
(小学校)

### 1 図画工作科の週授業時数



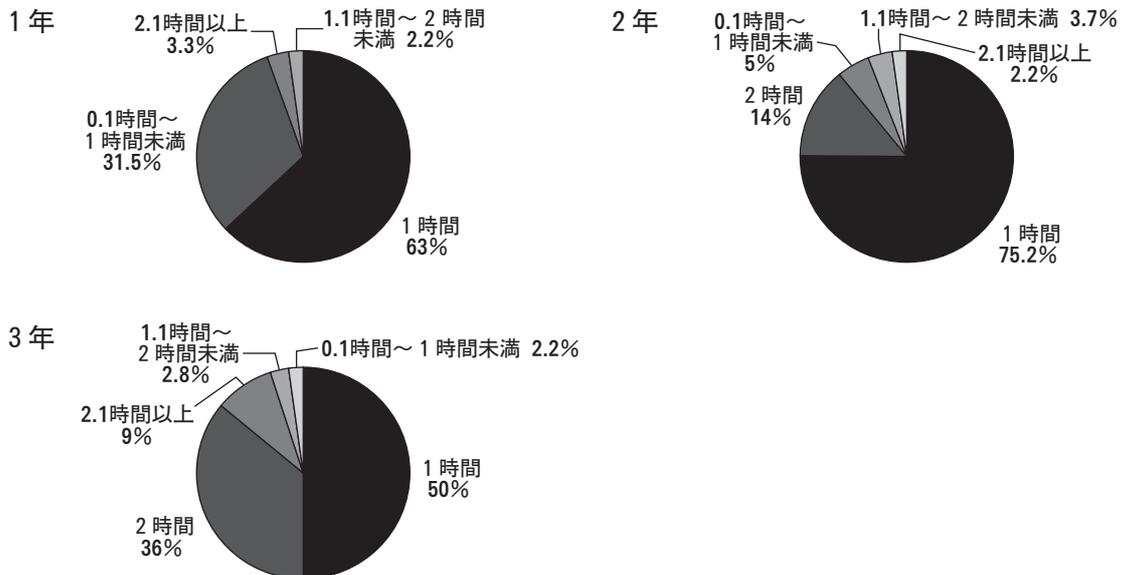
(中学校)

### 2 必修「美術」の週授業時数

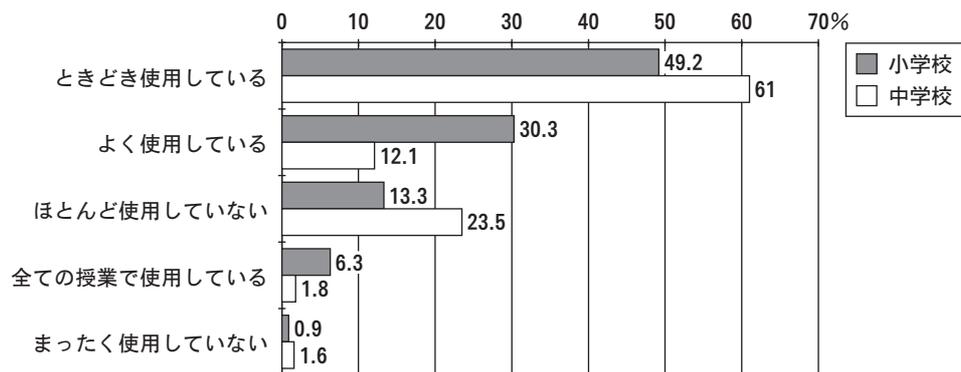


(中学校)

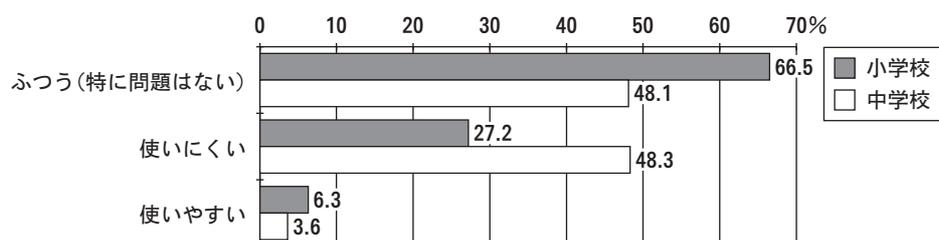
### 3 選択「美術」の週授業時数



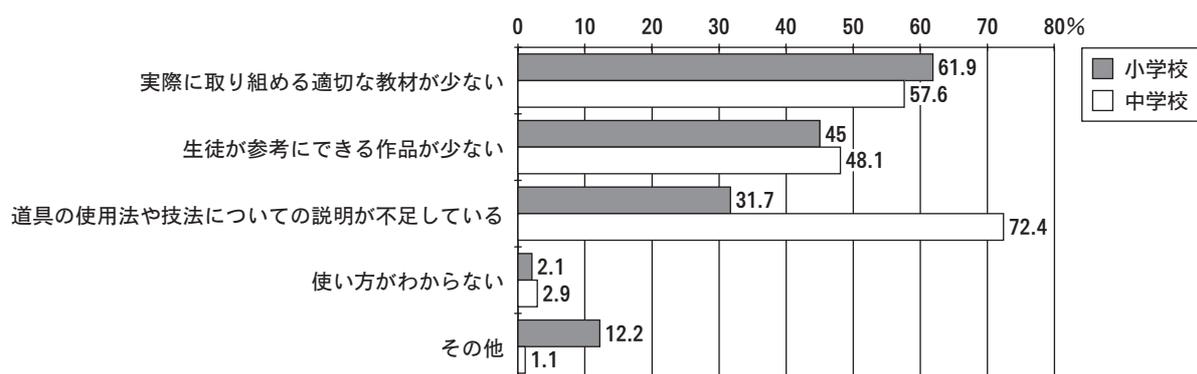
#### 4 教科書の使用状況



#### 5 教科書の使いやすさ

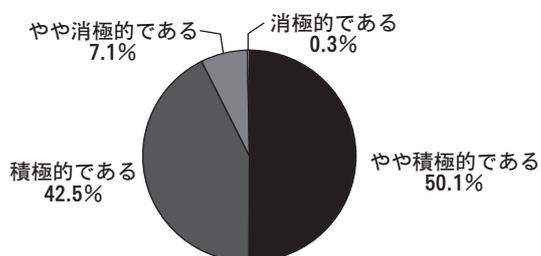


#### 6 教科書の使いにくい理由



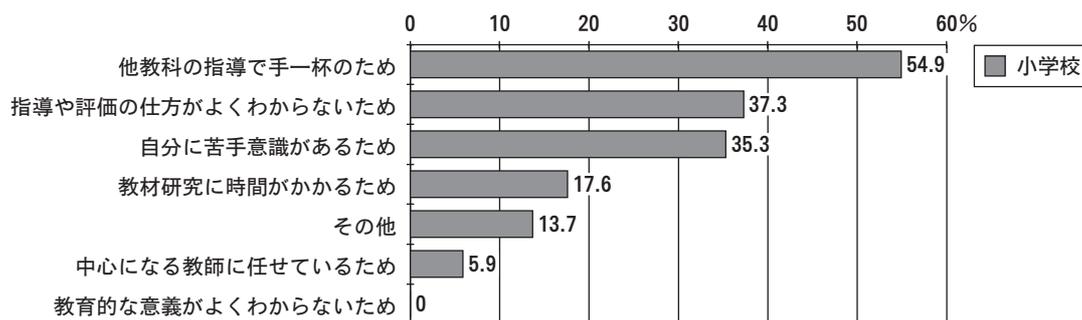
(小学校)

#### 7 図画工作科の学習指導への取り組み



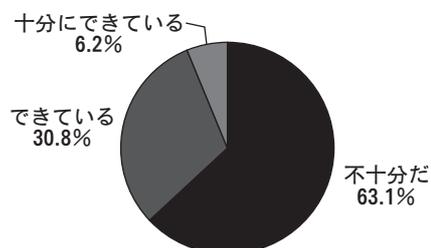
(小学校)

### 8 図画工作科への取り組みにおいて消極的な理由



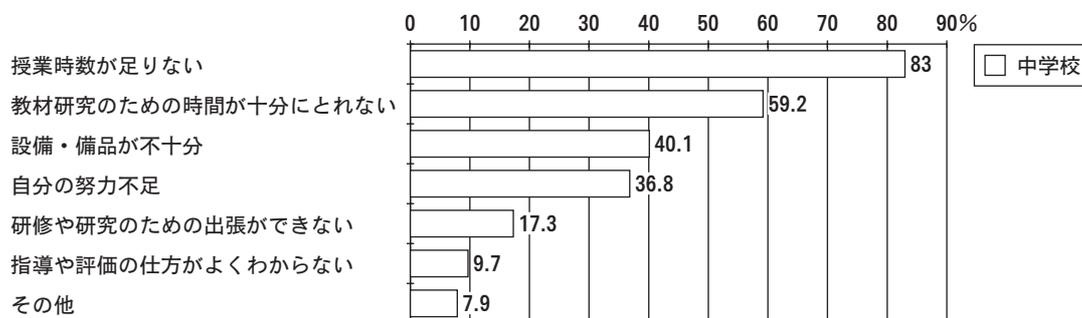
(中学校)

### 9 美術の学習指導

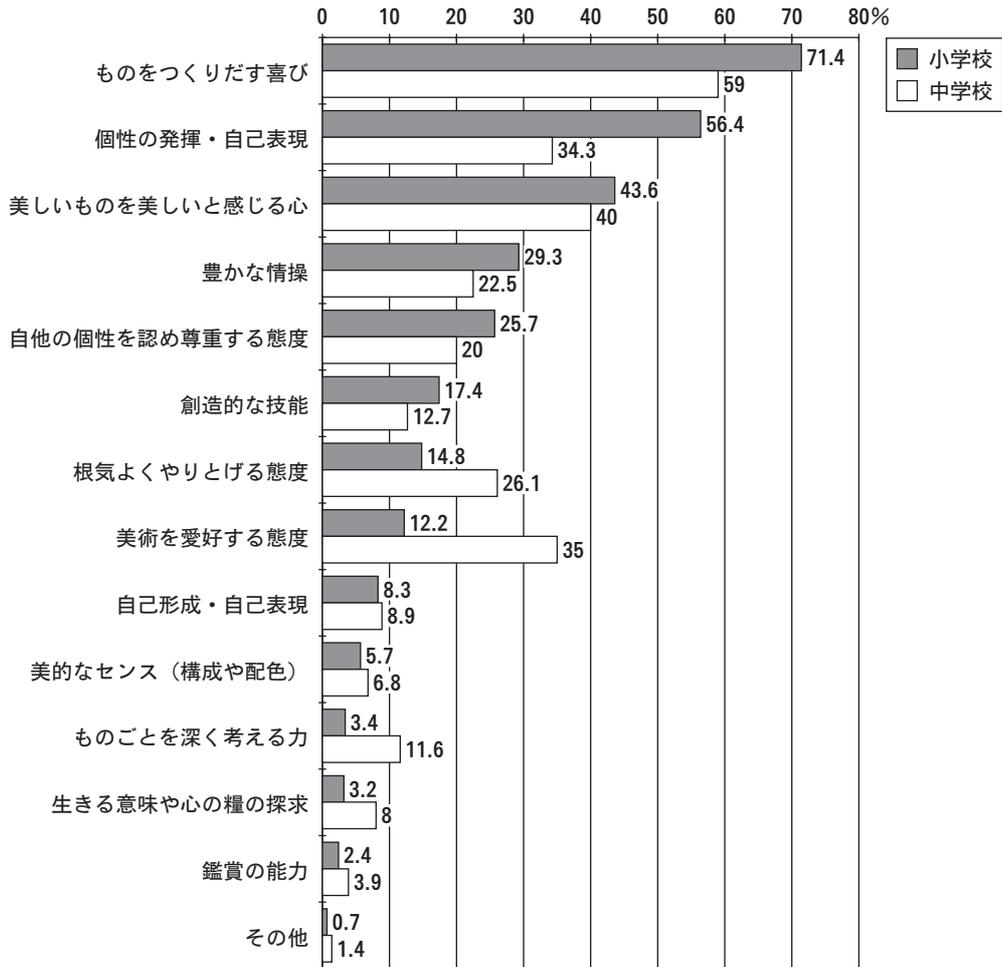


(中学校)

### 10 美術の学習指導の不十分な理由



## 11 図画工作・美術の学習の意義

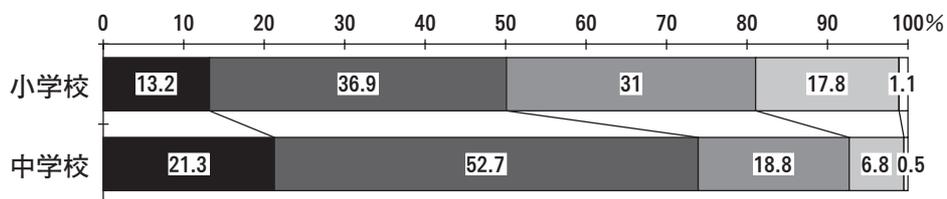


### Ⅲ 鑑賞の学習指導

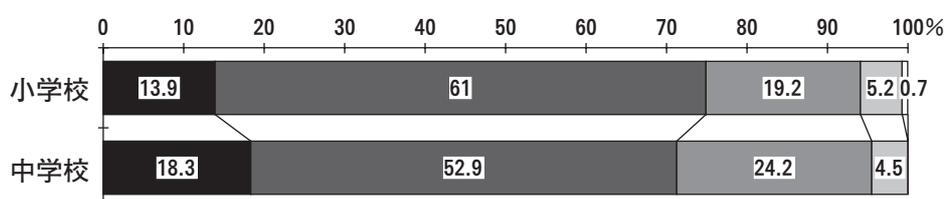
#### 1 鑑賞学習の目的・意義



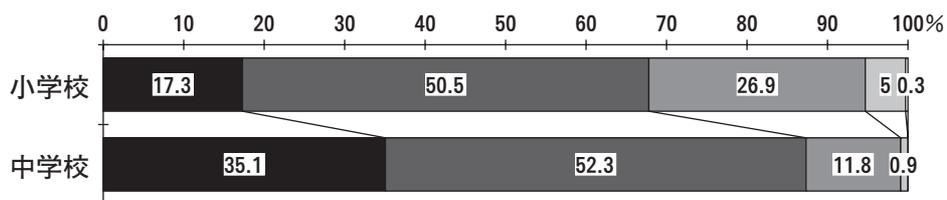
①美術鑑賞に必要な基礎的・基本的知識の獲得・理解



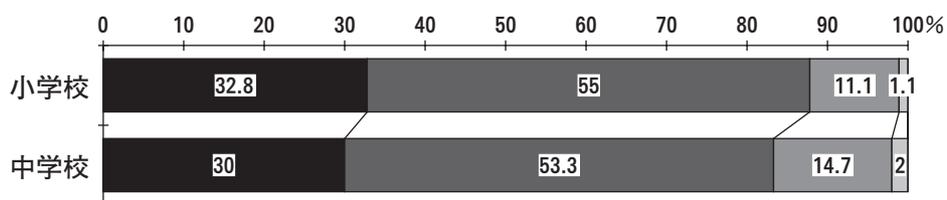
②技法や表現方法についての興味関心の喚起・理解



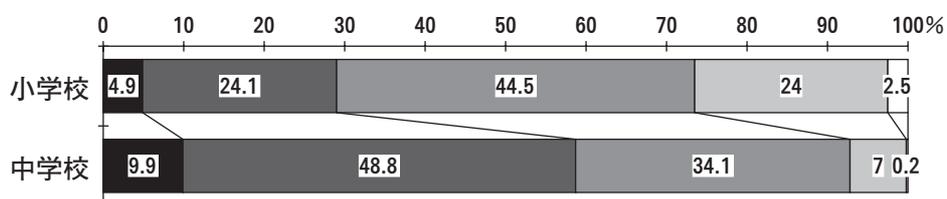
③わが国や外国の美術文化への興味関心の喚起・理解



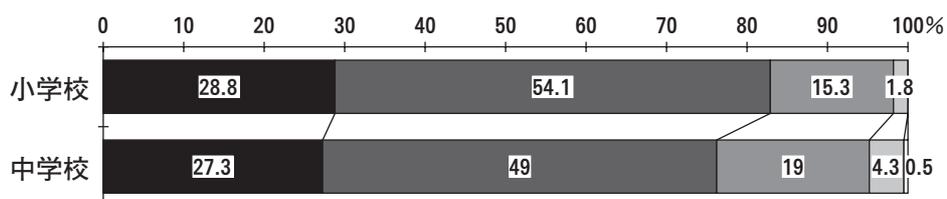
④表現の多様性への興味関心の喚起・理解



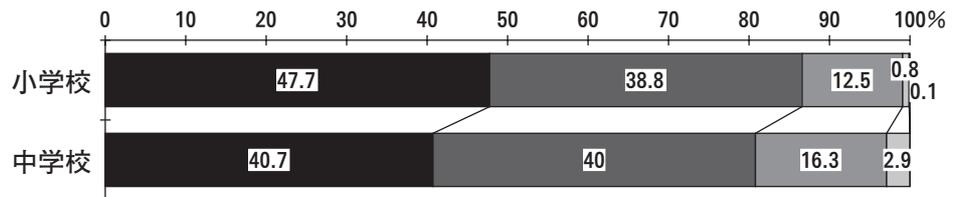
⑤美術の歴史に関する興味関心の喚起・理解



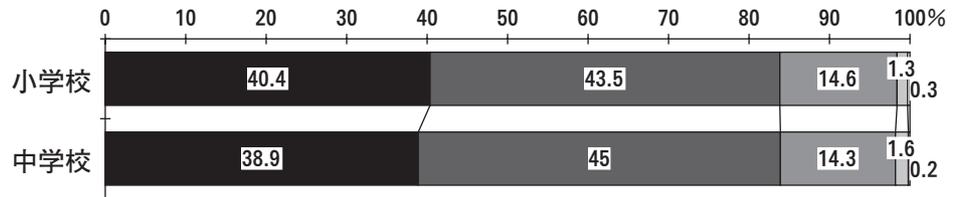
⑥発想力・構成力・色彩感覚など造形能力の育成



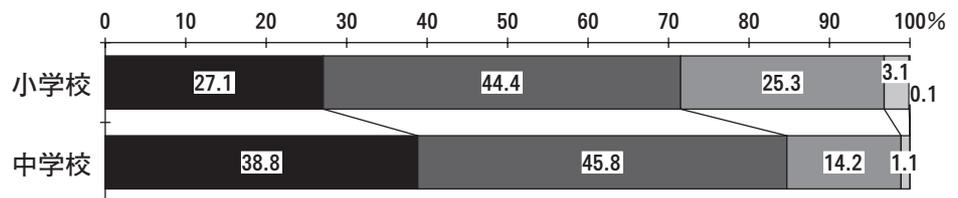
⑦自己表現の大切さの理解



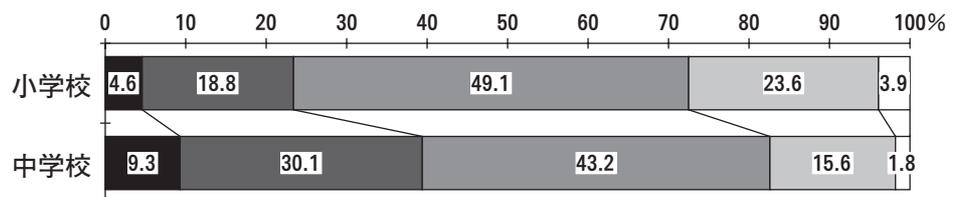
⑧鑑賞活動の楽しさ、主体的な鑑賞態度の育成



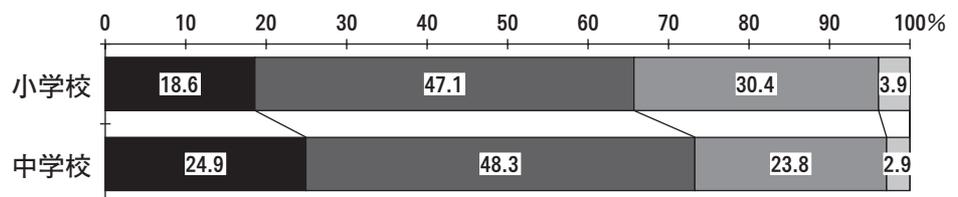
⑨美術文化を愛好する心情の育成



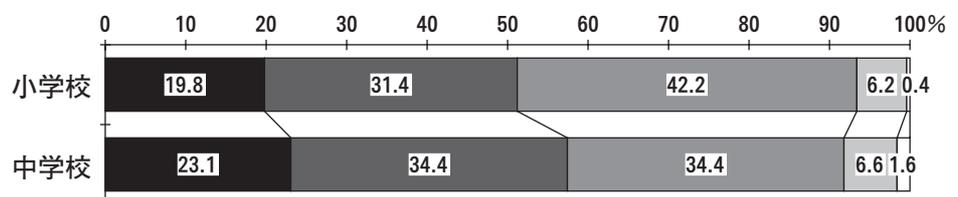
⑩批判的・分析的思考力や洞察力の育成



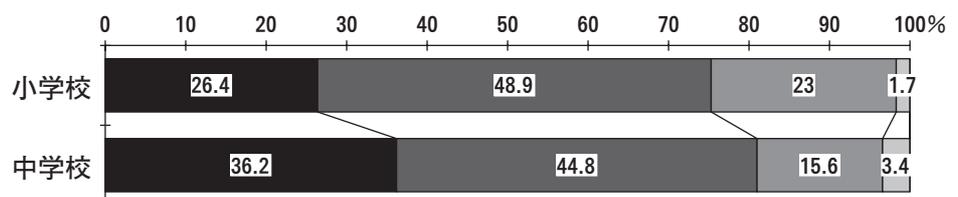
⑪美的価値観や情操の形成



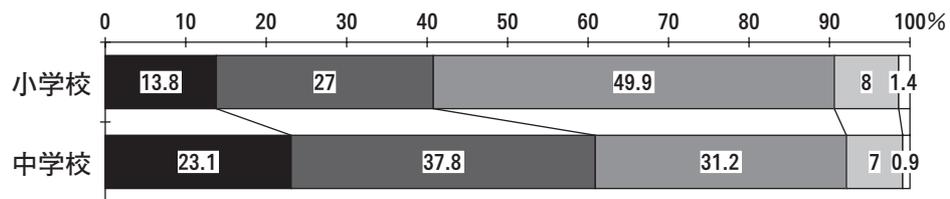
⑫人間性や人格の形成と発達



⑬生活の中に美術を生かしていく態度の育成



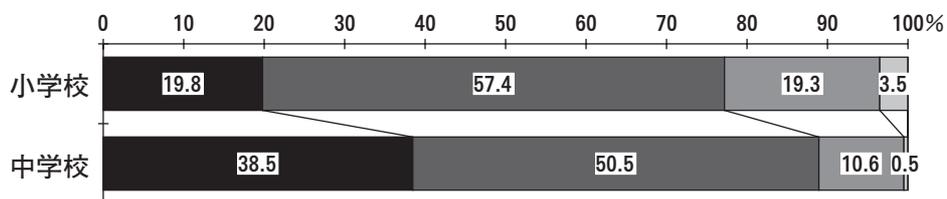
⑭生きる意味や生き方  
を考え問直す姿勢の  
育成



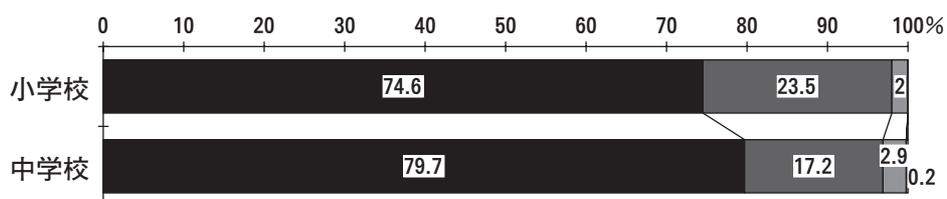
## 2 鑑賞学習の活動



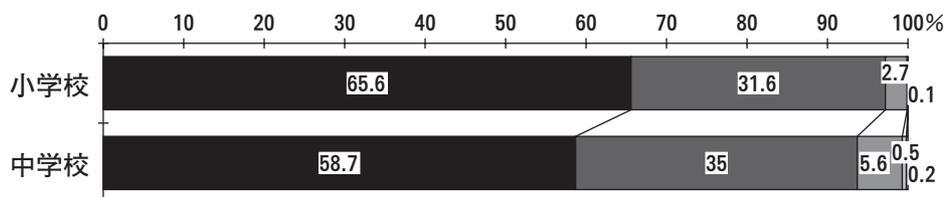
### ① 写真や図版、映像を見る



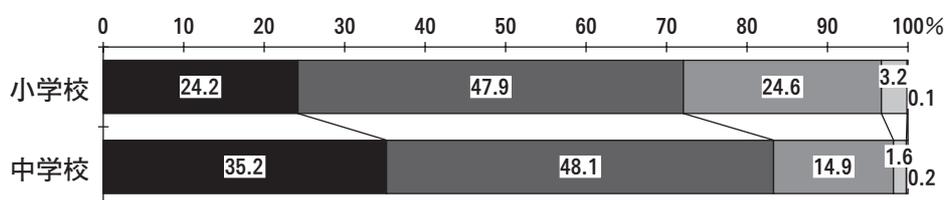
### ② 実物作品を見る



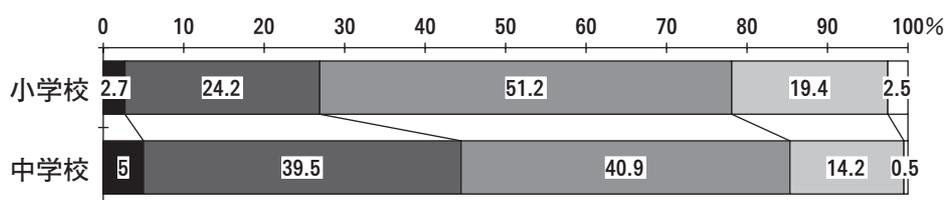
### ③ 制作した作品を見せ合う



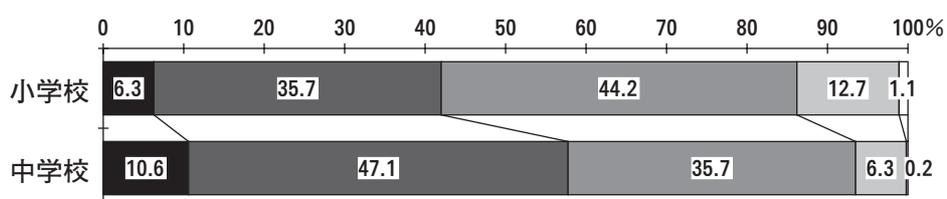
### ④ 作家や職人の制作活動の過程を見る



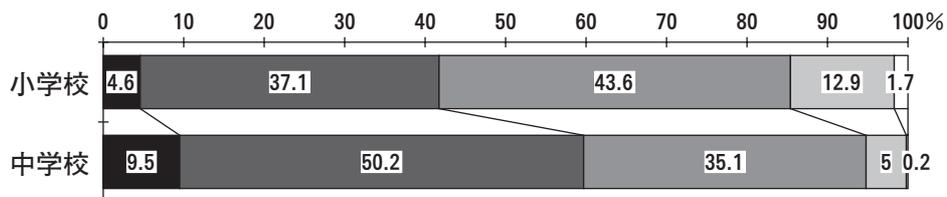
### ⑤ 文を読む（解説・評論・感想など）



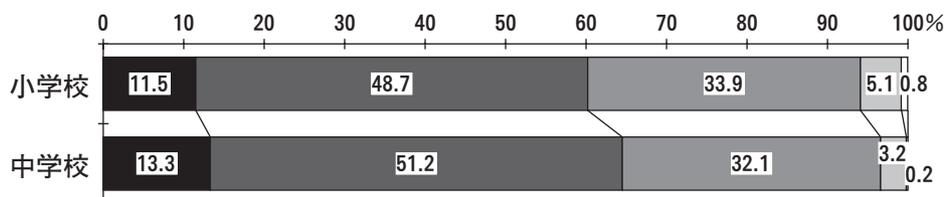
### ⑥ 資料を集める



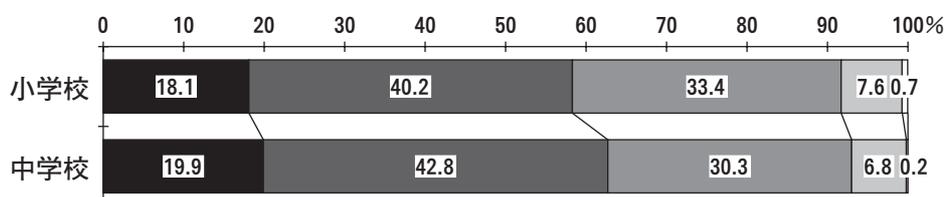
⑦資料で調べる



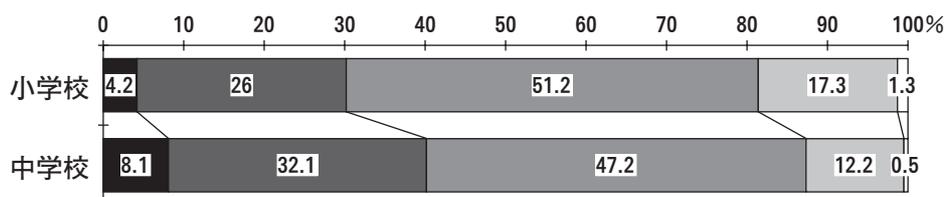
⑧話を聞く



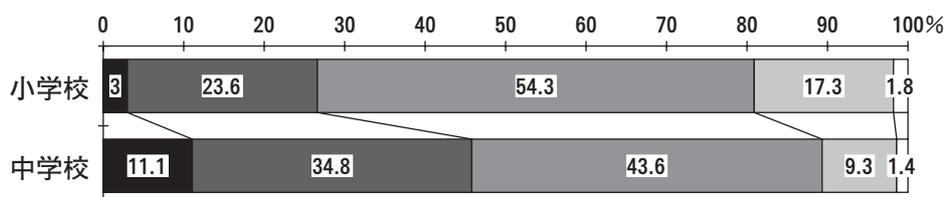
⑨話をする (ディスカッション・フリートーク・発表など)



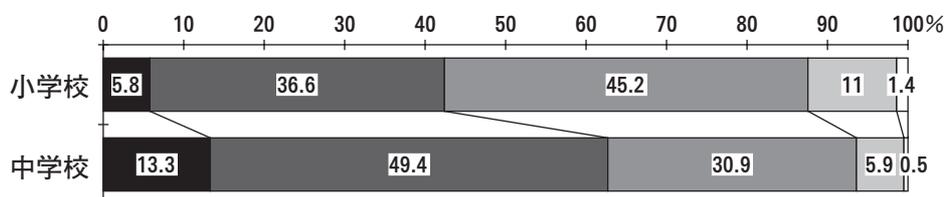
⑩記録する



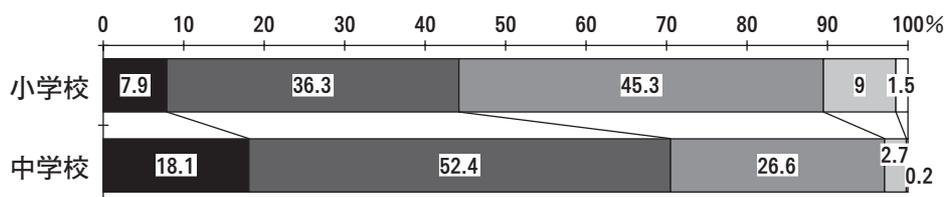
⑪推理や仮定をする



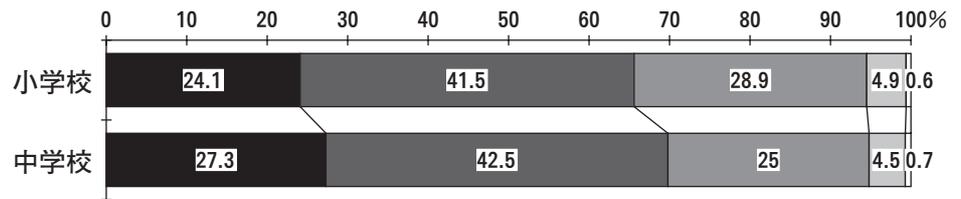
⑫比較・検討する



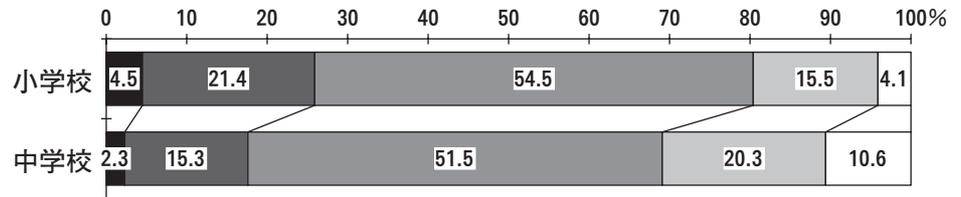
⑬考察をする



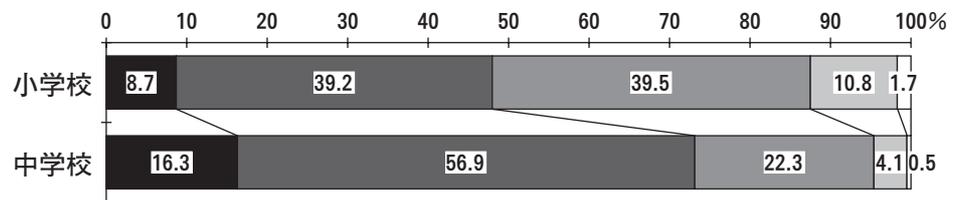
⑭制作をする



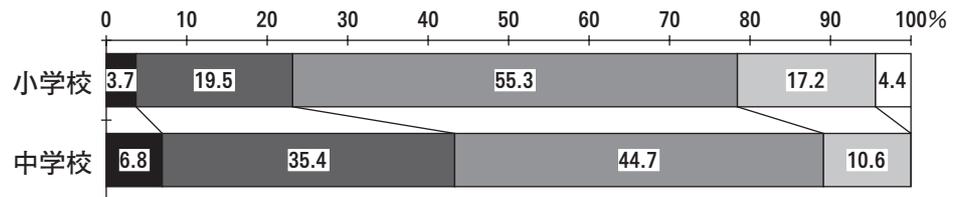
⑮ゲーム活動をする



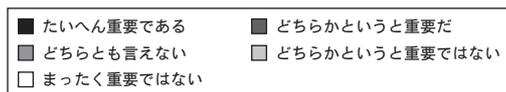
⑯感想文やレポートを書く



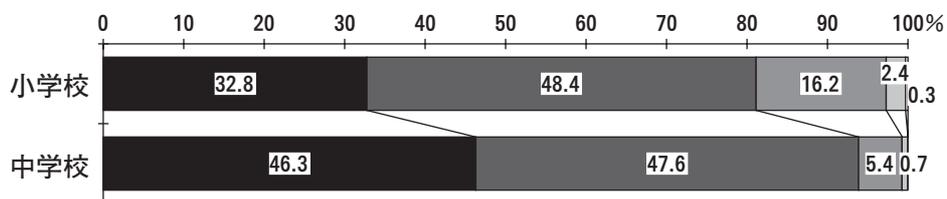
⑰プレゼンテーションを作成する



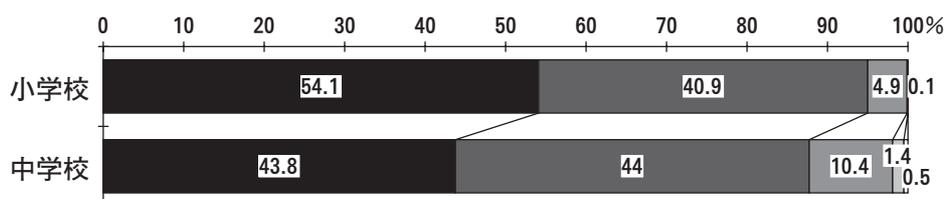
### 3 鑑賞学習の対象（内容）



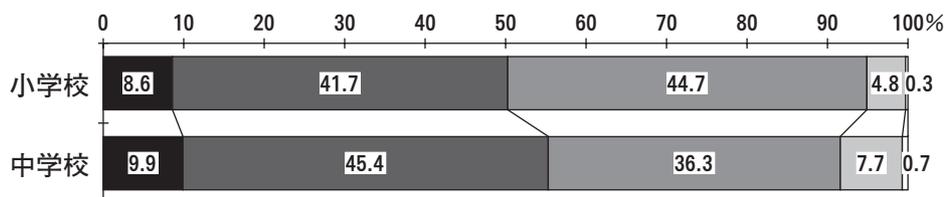
#### ① 歴史的な名作や作家の作品



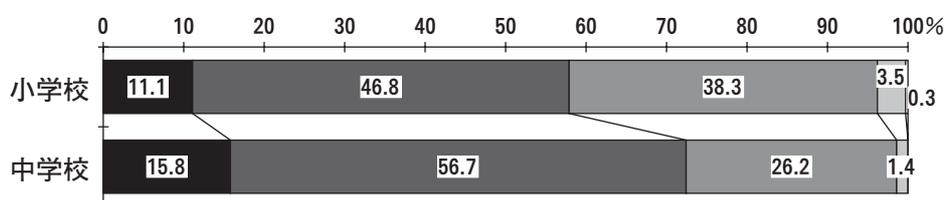
#### ② 児童生徒の作品



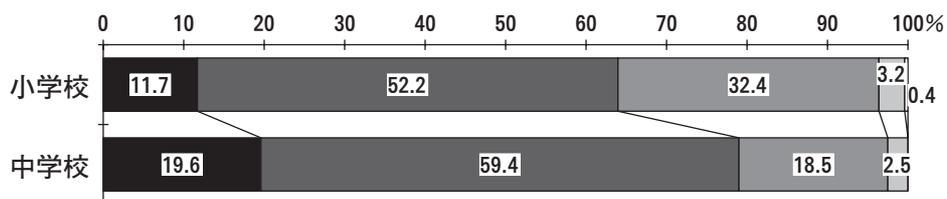
#### ③ マンガやイラストなど身近なアート



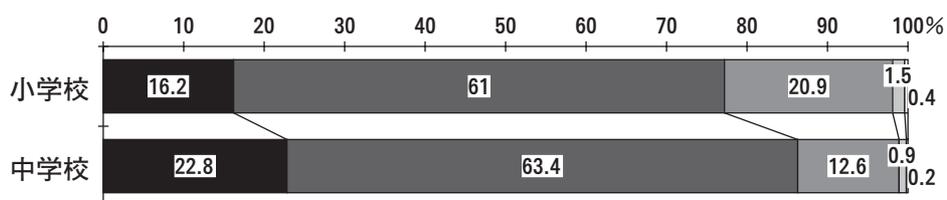
#### ④ 写真や映像



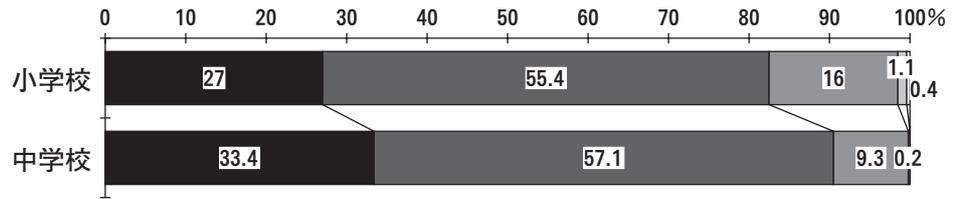
#### ⑤ 日用品など様々な製品デザイン



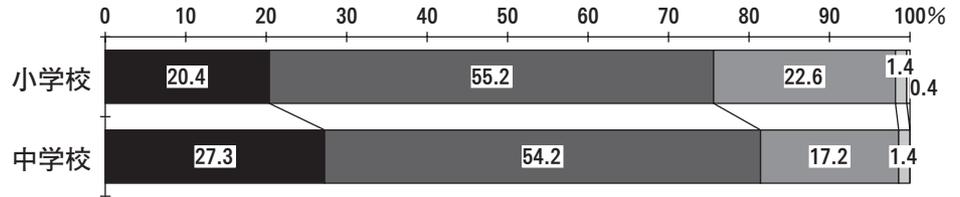
#### ⑥ ポスターや標識などの伝達デザイン



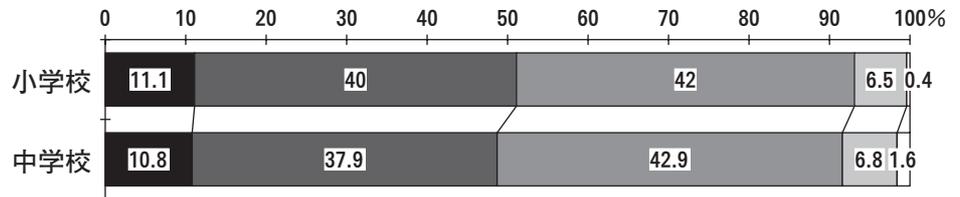
⑦伝統的な工芸や手工  
品



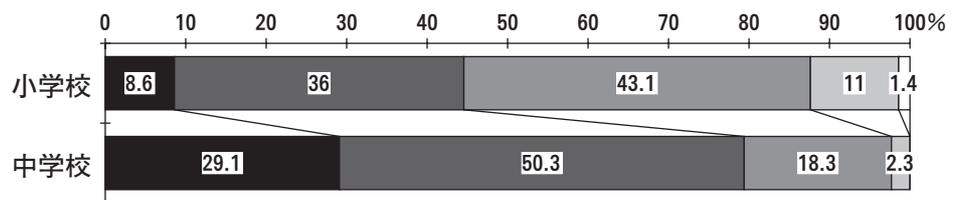
⑧現代の工芸や手仕事



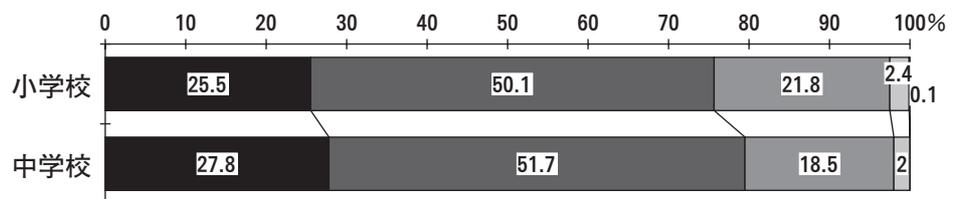
⑨手書きの文字や書



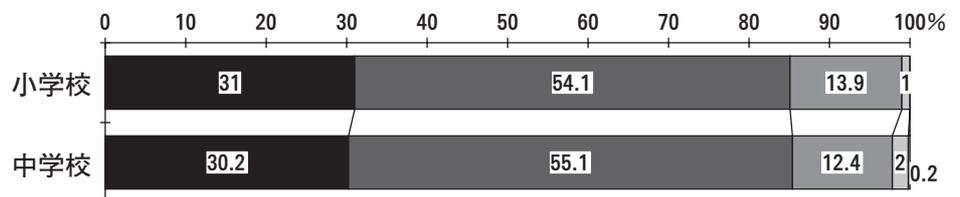
⑩作家の背景や人生観



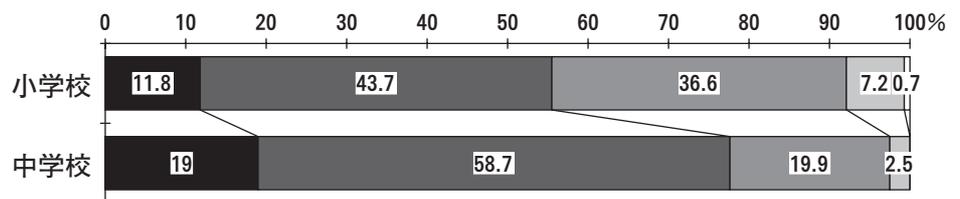
⑪個性的表現の工夫



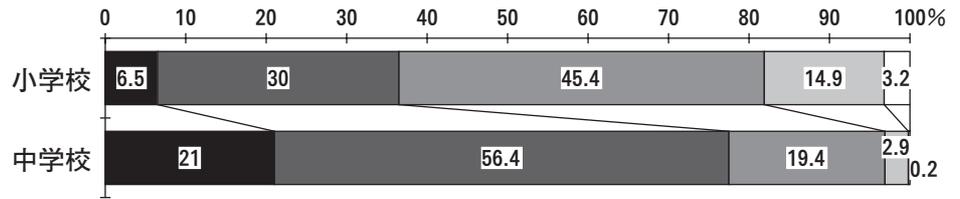
⑫多様な表現技術や技  
法



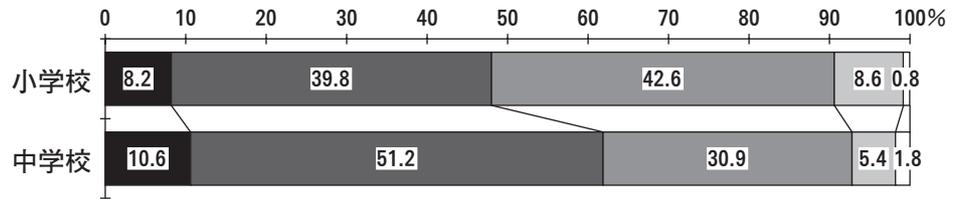
⑬環境や建築等の空間  
デザイン



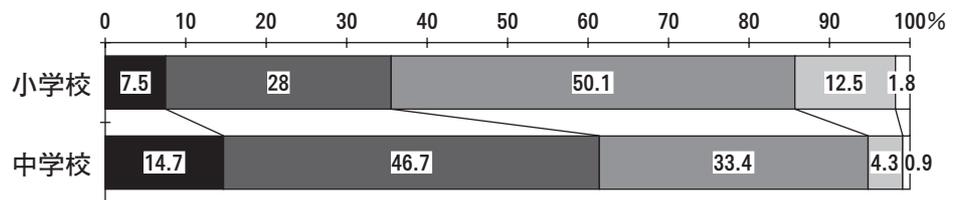
⑭美術の歴史や社会的背景



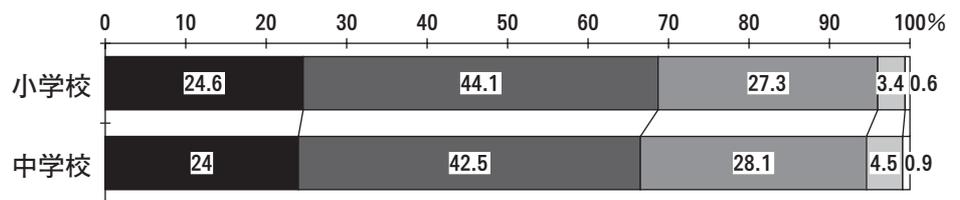
⑮コンピュータグラフィックスやWEBデザイン



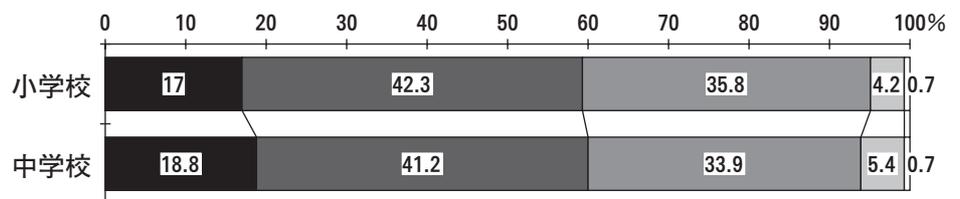
⑯気候風土と美術文化



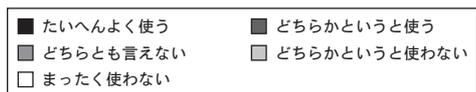
⑰自然



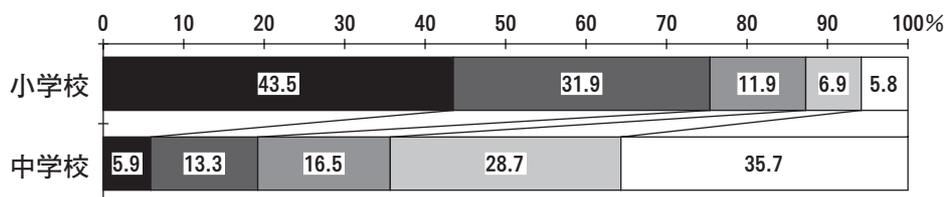
⑱人々の生活



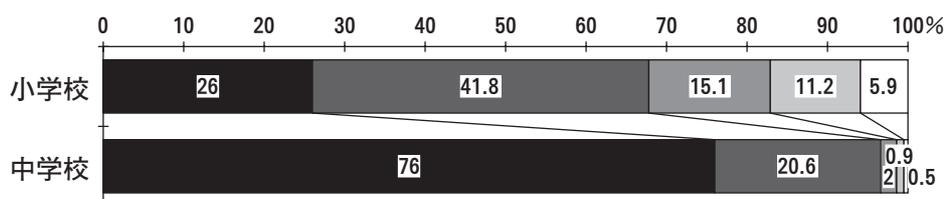
## 4 鑑賞学習の場



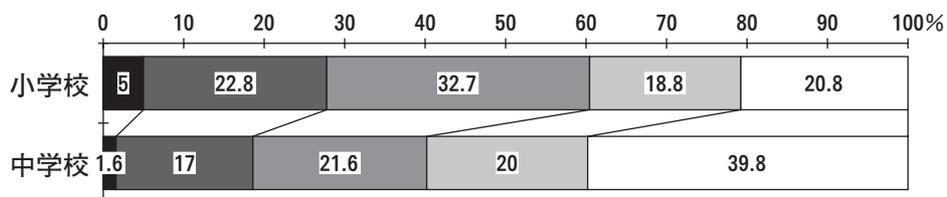
### ①普通教室



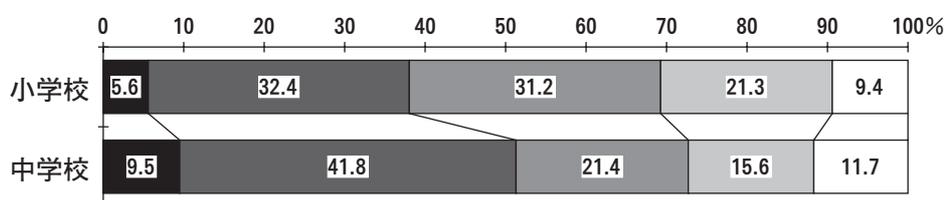
### ②図工・美術室



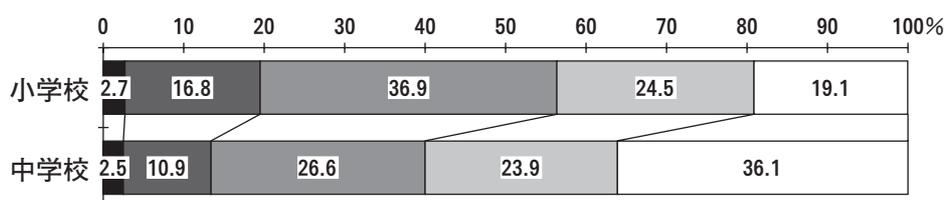
### ③多目的室



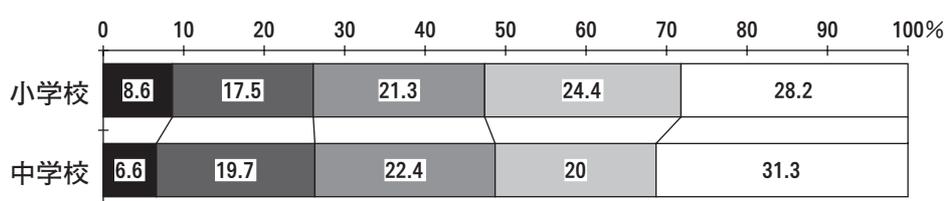
### ④図書室・パソコン教室・視聴覚教室など



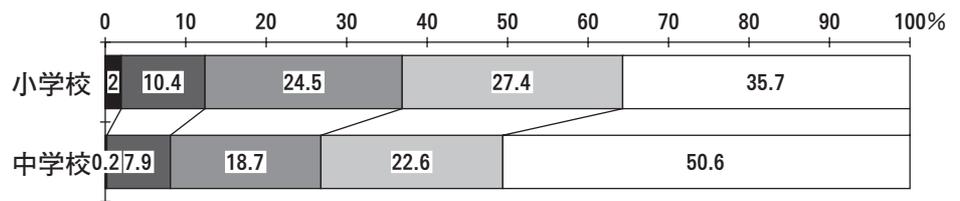
### ⑤その他の学校内施設



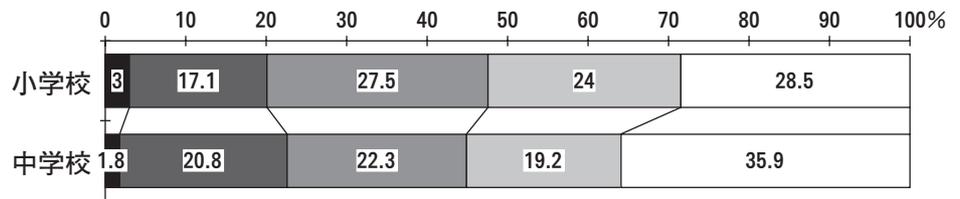
### ⑥美術館・博物館



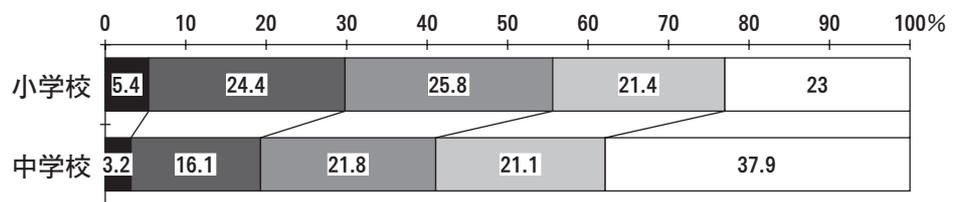
⑦公園・公共スペース  
など



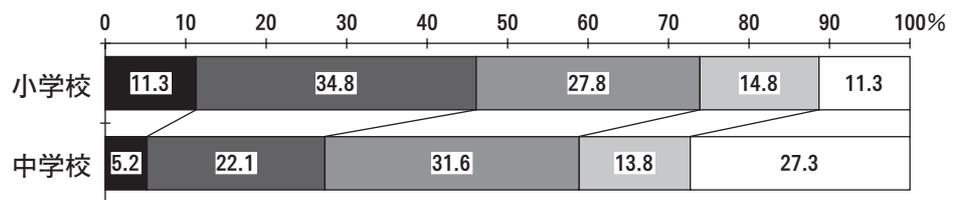
⑧資料館・図書館



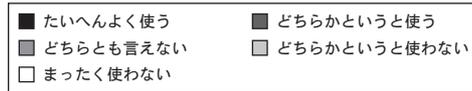
⑨地域の文化遺産（社  
寺仏閣・歴史的景観  
地区など）



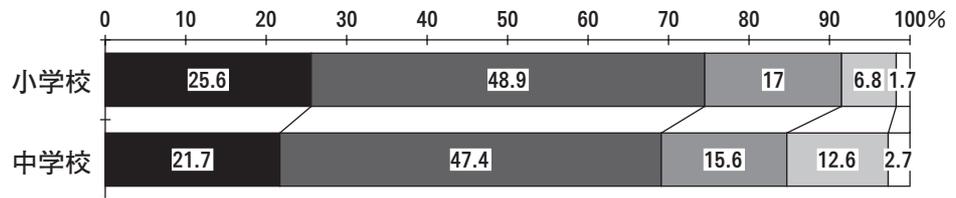
⑩自然環境



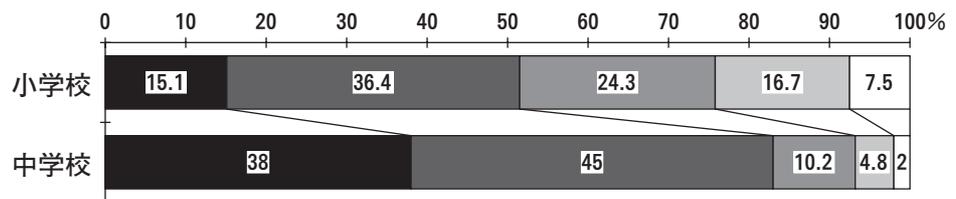
## 5 鑑賞学習の教材教具



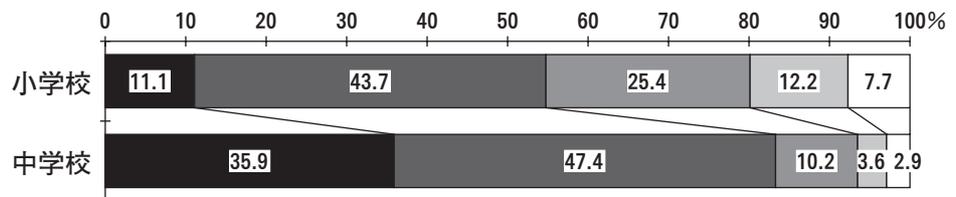
### ①教科書



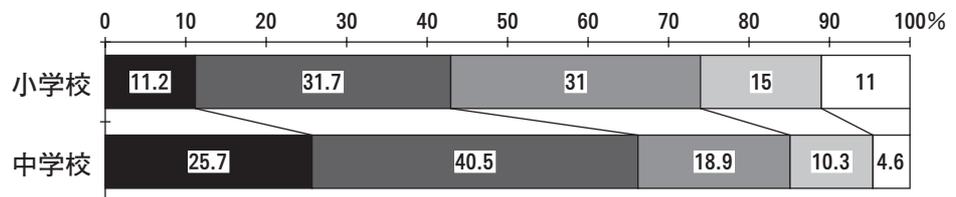
### ②教師が作成する自作印刷教材・資料など



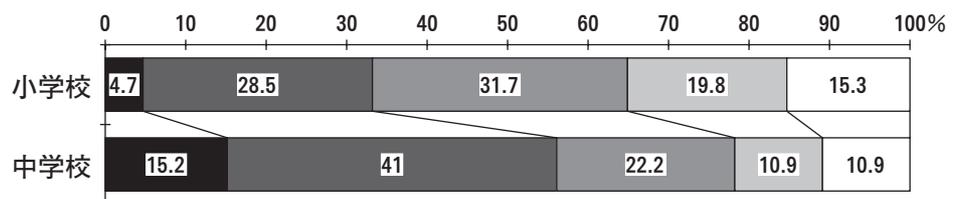
### ③市販される印刷教材・資料集など



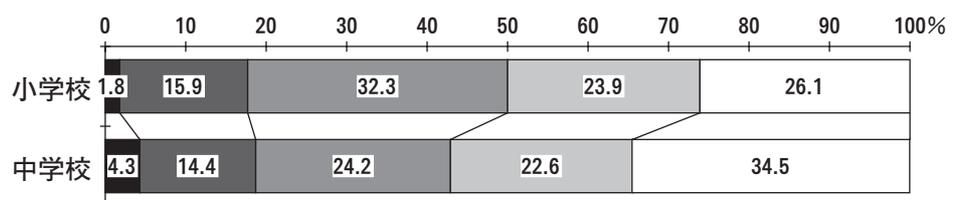
### ④教師が収集したり編集したりした写真やビデオなどの視聴覚教材



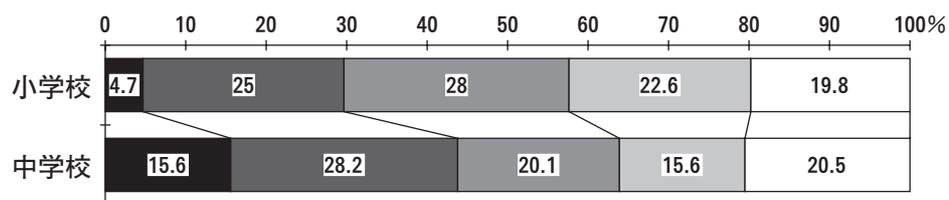
### ⑤市販の視聴覚教材



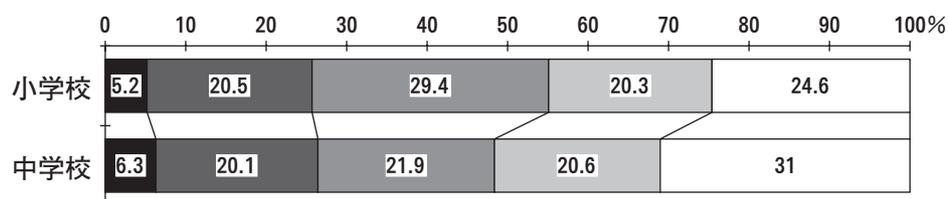
### ⑥パソコンソフト（プレゼンテーションツールなど）



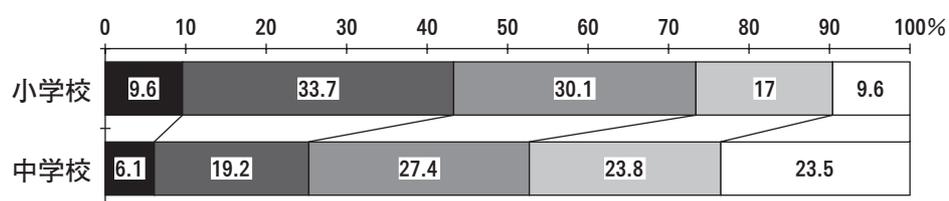
⑦プロジェクターなどの  
視聴覚機器



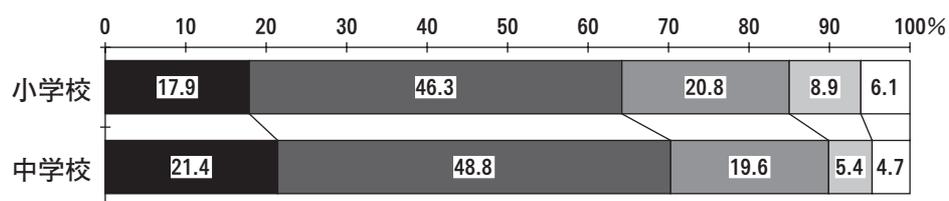
⑧インターネットに接  
続されたパソコン



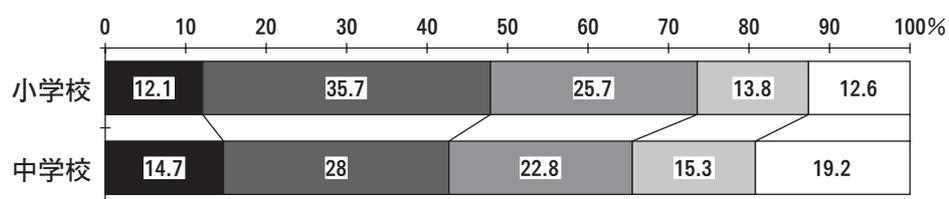
⑨絵はがきなどのカー  
ド類



⑩美術全集などの図版



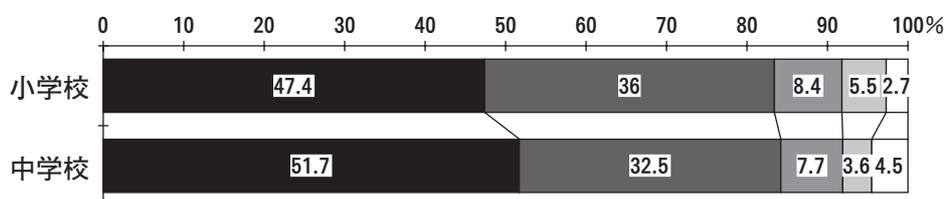
⑪カメラ・デジタルカ  
メラやビデオカメラ  
など



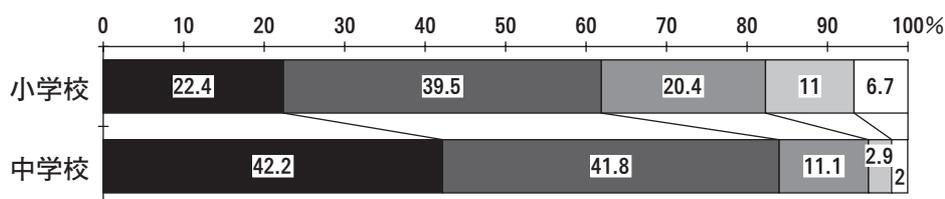
## 6 鑑賞学習の学習結果、成果、評価資料



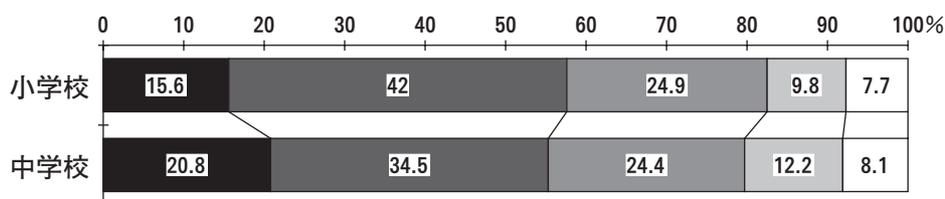
①ワークシートや鑑賞カードなど、児童生徒が自ら記入した学習過程の資料



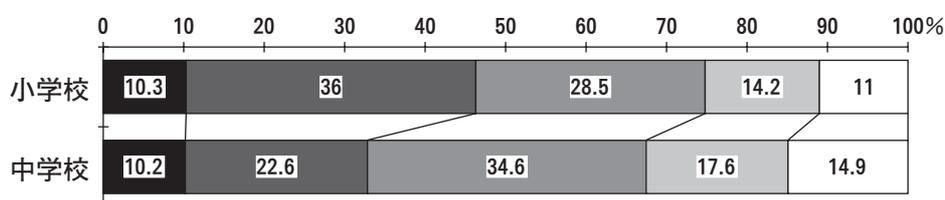
②レポートや感想文



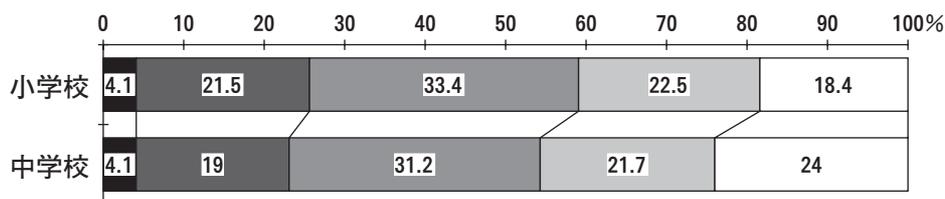
③教師が記入するチェックシートや評価カードなど



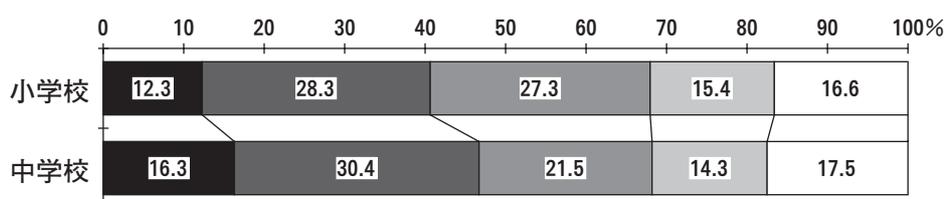
④個人の発表・プレゼンテーション



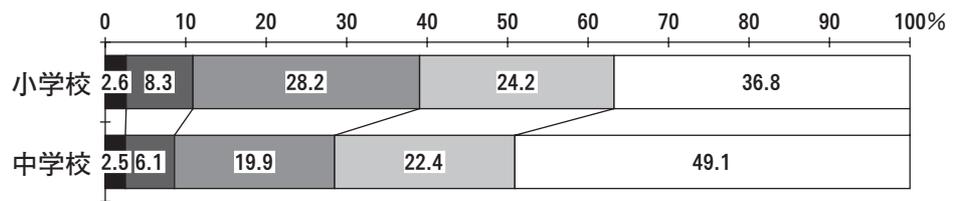
⑤グループによる発表・プレゼンテーション



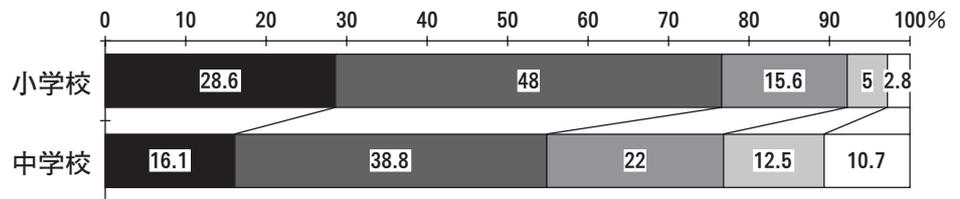
⑥鑑賞学習の過程において行った制作物



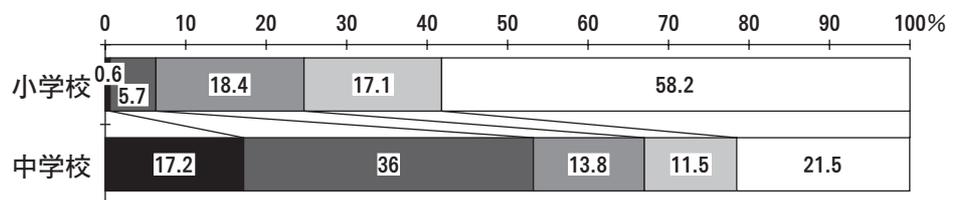
⑦デジタルポートフォリオ



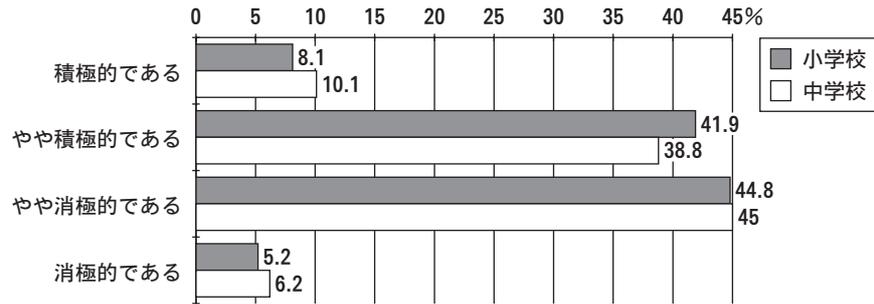
⑧児童生徒による相互評価



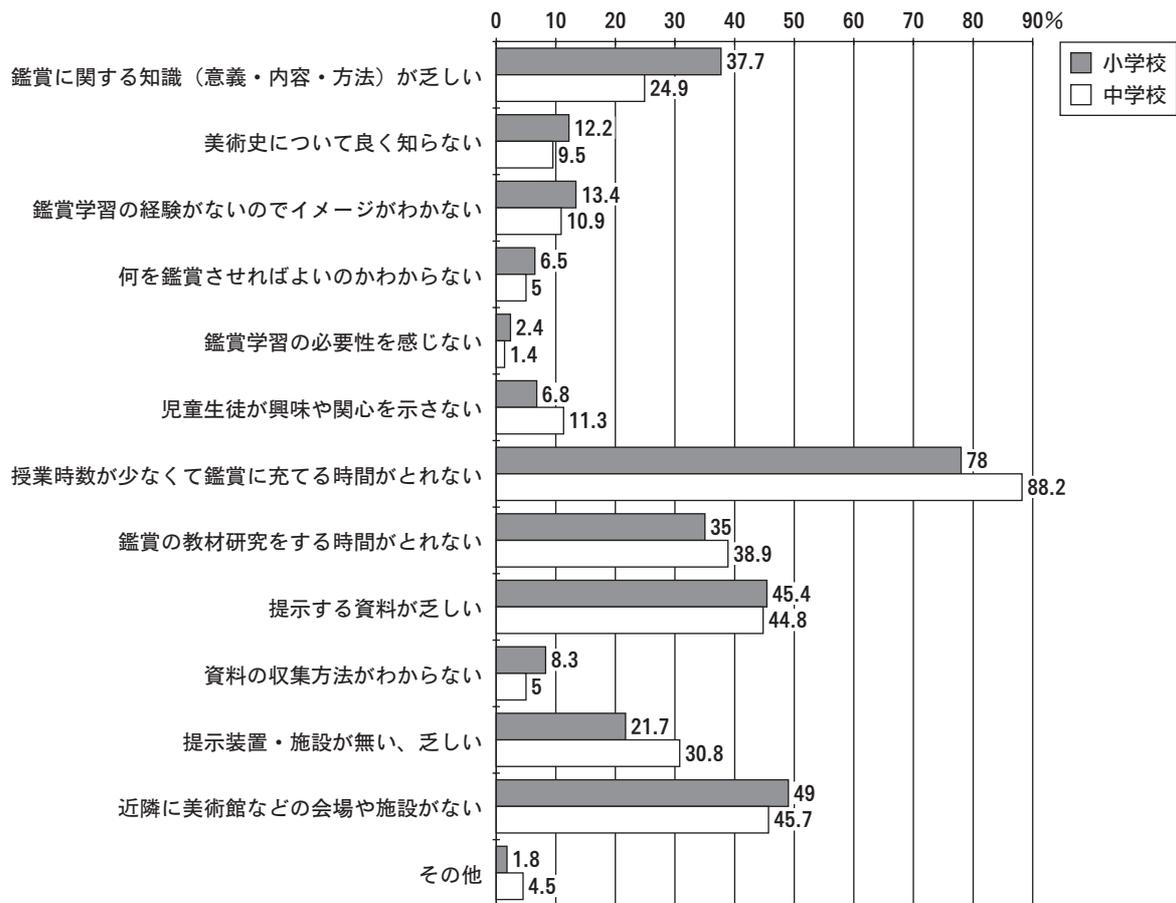
⑨ペーパーテスト



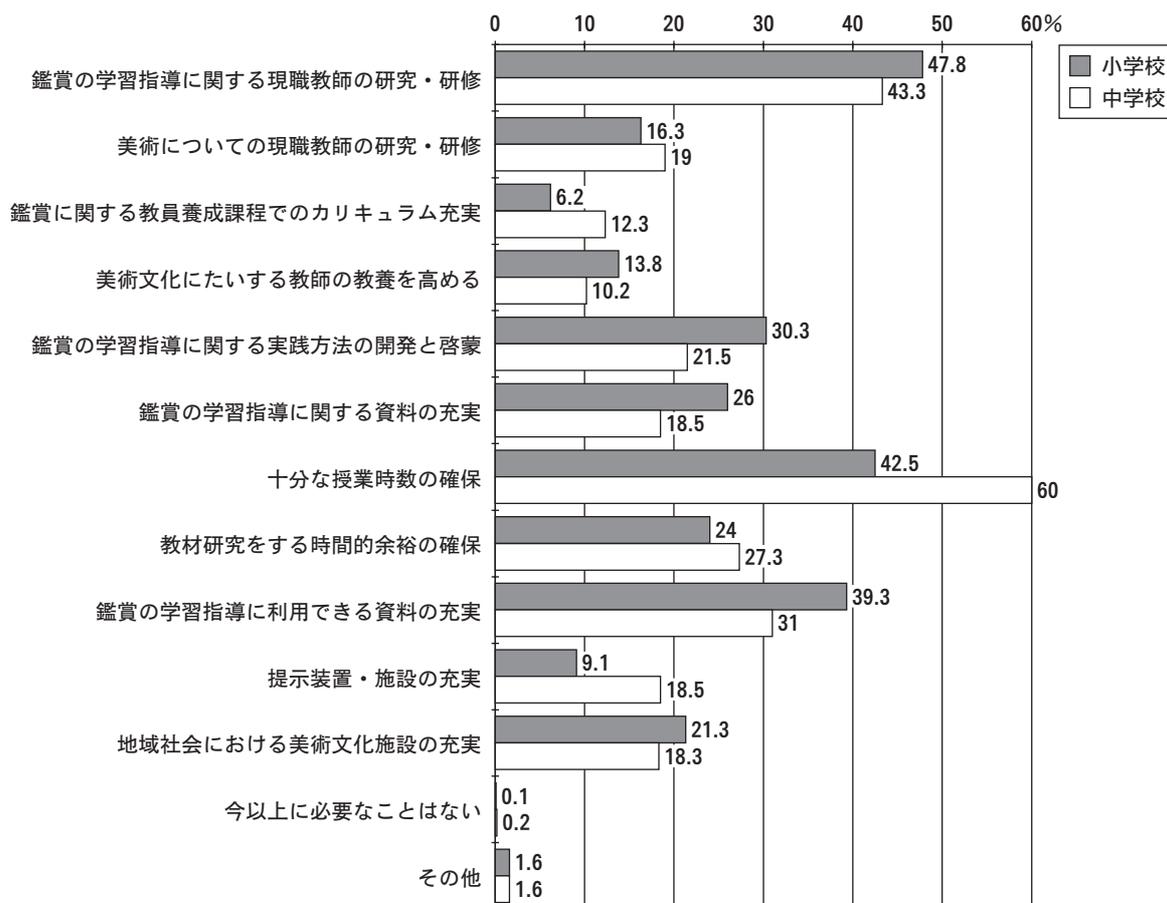
## 7 鑑賞学習指導の取組み



## 8 鑑賞学習指導の取組みに消極的な理由



### 9 鑑賞学習を進めるために必要な改善点



### 10 出身大学における鑑賞に関する授業設定



### 11 出身大学で設定されていた鑑賞関連科目

